

教育学研究科・心理発達臨床専攻 アセスメントプラン

1 アセスメントの目的

学生や社会の状況を捉え、データに基づくカリキュラムおよび個々の授業、そして学習支援の改善を継続的に行うことを目的として、学修成果のアセスメントを行う。アセスメントにあたっては、直接評価と間接評価の双方を取り入れる。前者については成績や学籍異動の状況に関するデータを収集し、後者については全学生に対して毎年実施するアンケートを中心にデータを収集する。アンケートについては縦断的な調査を行うことにより、総体としての学生の状況だけでなく個々の学生における能力や学習状況の変化を追跡する。これにより、個々の学生に対する学習支援の改善を行う。さらに、成績評価の結果や学籍異動の状況に関するデータと併せて分析することで、休学・中退や成績不振の予測などへの活用を図る。

2 達成すべき質的水準

達成すべき質的水準は、以下教育学研究科・心理発達臨床専攻のディプロマ・ポリシーにおいて定めている。

(知識・理解)

DP1. 学校や地域における臨床心理学的支援に必要な、生涯発達・教育、臨床心理学、精神保健医療に関する専門的知識を習得している。

(技能)

DP2. 学校や地域における教育的支援、臨床心理学的支援にかかわる高い技能を身につけている。

(思考・判断・表現)

DP.3 生涯発達と教育、心の健康にかかわる現代的諸課題について、幅広く専門的な知見をもとに、その対応方策を適切に考え、高度な実践力をもって臨床的支援に取り組むことができる。

(関心・意欲・態度)

DP4. 心の健康に対する社会のニーズと自己の学習課題・研究課題を明確に意識し、実践を省察しつつ先導的に学習し研究する高度な実践力をもった専門的職業人として、自己の使命と責任とを自覚し、自主的に社会に貢献しようとする。

3 アセスメントの方法

No.	名称	時期・頻度	学年	主な質問項目、内容等	手法	実施責任部署	結果の活用方法
1	修了予定者の進路状況調査	毎年1回	2年生	修了者の進路（心理職就職率）	修学支援システム登録	教育学生支援部就職支援課	入試改善，授業方法やカリキュラム改善，自己点検・評価に活用
2	修了生追跡調査の依頼	毎年1回	2年生	・修了後の個人情報（メールアドレス）提供の依頼 ・臨床心理士・公認心理師資格試験受験後の合否報告 ・就職先の職場紹介等	メール	心理発達臨床専攻運営会議	入試改善，授業方法や実習カリキュラムの改善，就職支援の充実，
3	修了生調査	毎年1回	修了後3年経過の卒業生	現在の就業状況，大学院に対する満足度，大学院で身についた能力，授業や教育プログラムへの意見・要望	Webアンケート	教育・学生支援機構	教育・学生支援機構が教育学生支援鍵に報告し，報告し，就職支援の充実，自己点検・評価，情報公開に活用
4	DP対応授業評価	毎学期の終わり	全学年	受講した授業のDPへの適合度等	Webアンケート	教育コーディネーター	授業方法やカリキュラムの改善，自己点検・評価に活用
5	実習施設担当者が行う実習生の評価	前・後学期	2年生	職務内容理解，実習態度，人間関係の観点から5段階評価	質問紙	心理発達臨床専攻運営会議	授業方法や実習カリキュラムの改善，自己点検・評価に活用
6	リサーチ・ループリックによる評価	毎年2回	全学年	修士論文に関わる研究の到達度の達成度	エクセル	心理発達臨床専攻運営会議	修士論文指導の改善，自己点検・評価に活用 形成的評価と到達度評価の両方において活用
7	教育学部学生モニター会議	毎年1回	全学年 (学生代表者)	学習行動、授業・カリキュラム満足度	集会	教務委員会	授業方法やカリキュラム改善，学習支援や学習環境の充実、自己点検・評価に活用

下の表は、あなたがご自身の修士論文を自ら改善するのに役立てると同時に、指導教員(主に論文指導を担当する教員)による指導をより効果的にするためのルーブリックです。Aを最も高い水準、以下、B、C、Dと段階が設定されています。これによって、より質の高い研究に到達するために必要なことが具体的に分かります。指導教員との目標や進捗の確認、そしてご自身で研究を進める過程において、定期的にご活用ください。なお、本研究科においては、すべての項目がB以上をクリアすることを学位論文合格の基準としています。

それぞれの項目に対してあなたの研究の現状に該当するものをA~Dから選んでOで囲んでください。また、そのように評価した理由や進捗、いずれとも判断できなかった理由について右側の欄に記述してください。該当しない項目は評価理由欄に斜線をを入れてください。

領域	評価項目	A	B	C	D	評価理由や進捗の説明(カッコ内は削除してご提出ください)
テーマ設定	現代の心理学的課題への貢献	現代社会あるいは地域における心理学的課題に深く関係し、その解決に繋がりうる研究テーマを設定している	現代社会あるいは地域における心理学的課題に深く関係し、その課題理解に繋がりうる研究テーマを設定している	現代社会あるいは地域における心理学的課題の解決や課題理解の深化に少し関連するテーマを設定している	現代社会あるいは地域における心理学的課題の解決や理解の深化とは無関係なテーマを設定している	(本研究と現代の心理学的課題との関連を説明してください、1年次に提出したときから変更がないときには同じで結構です)
	発展可能性	より重要な研究へと発展することが確実なテーマである	より重要な研究へと発展することが可能なテーマである	より重要な研究へと発展する可能性の有無についてははっきりしない	より重要な研究への発展する可能性の見込みのないテーマである	(本研究の発展可能性を説明してください、1年次に提出したときから変更がないときには同じで結構です)
	研究の独自性	関連する先行研究を網羅した上で、当該論文のテーマが独創的であることが明確に示されている	関連する先行研究に当該論文と類似するテーマがないわけではないが、ある特定の観点からは独自性を有すると認められる	すでにほぼ同様のテーマの先行研究があるものの、主要な先行研究に位置づけたり、実践上のニーズから考えると、その研究の意義が認められる。	すでに、同様のテーマの先行研究が存在しており、実践上のニーズからみても独自性は認められない	(他の研究と比べて、本研究がどのような特徴を持つか説明してください、1年次に提出したときから変更がないときには同じで結構です)
研究活動の妥当性	計画・準備	指導教員との協議を通して計画書を作成・提出し、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつどのように実施するか明確である	指導教員との協議を通して計画書を作成して提出したが、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動予定がまだ明確に決まっているわけではない	指導教員との協議を通して計画書を作成し、一部具体的な研究展開の予定が決まり始めている。	指導教員との十分な協議を経た計画書が作成されていない。	(次に何をいつ行うか、予定を説明してください、1年次に提出したときから変更がないときには同じで結構です)
	研究倫理	研究倫理に関する研修を受講し、(必要な場合には)倫理審査にもパスしている	研究倫理に関する研修を受講したが、倫理審査のための書類は準備中である(倫理審査が必要な研究の場合)	研究倫理に関する研修を受講したが、倫理審査への準備は未着手である(倫理審査が必要な研究の場合)	研究に関わる倫理上の問題について検討していない	(倫理審査の必要の有無、準備状況、審査結果等について説明してください、1年次に提出したときから変更がないときには同じで結構です)
	データ・資料の管理保存	研究データを保存するための場所が、電子データや紙媒体などの形式に応じて定められており、指導教員によって安全に管理されている。	研究データを保存するための場所が、電子データや紙媒体などの形式に応じて定められているが、指導教員と大学院生がそのことを共有できていない。	研究データを保存する場所が決まっておらず、大学院生の自宅やパソコンに保管されている。	研究データがまとめられていない。	(実際のデータ管理状況を説明してください、1年次に提出したときから変更がないときには同じで結構です)
研究の内容とその記述	目的の明示性	研究の目的が明確に述べられており、その目的のために当該研究で何をどう進めていくかというプランも明確にされている	研究の目的は述べられており、その目的を達成するためにどのように進めていくのかもほぼ明らかである	研究の目的はおおよそ述べられているが、その目的を達成するためにどのように進めていくかはやや不明確である	研究の目的が明確には述べられていない	(現在、執筆中のご自身の修士論文を振り返って自己評価を書いて下さい)
	研究方法の妥当性	研究目的を達成するために最もふさわしいと考えられる研究方法を選択している	研究目的を達成するのに適していると考えられる研究方法を採用している	研究目的を達成するのにふさわしい研究方法であるかや疑問である、あるいは他にさらに適当な方法が存在している	研究目的と研究方法が合致していない	(現在、執筆中のご自身の修士論文を振り返って自己評価を書いて下さい)
	記述・ルール	論文の本文は学術的な記述法で書かれ、当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定に従って書かれている	論文の本文は学術的な記述法で書かれ、当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定にもほぼ従っている	論文の本文は学術的な記述法で書かれたりしているが、当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定に従っていない部分がある	論文の本文は学術的な記述法で書かれておらず、当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定にもあまり従っていない	(現在、執筆中のご自身の修士論文を振り返って自己評価を書いて下さい)
	データ・資料の量	研究目的を達成するために選択した研究方法・分析方法を実施するのに十分適合する量のデータ・資料を収集している	研究目的を達成するために選択した研究方法・分析方法を実施するのに十分な量のデータ・資料を収集している	データ・資料を収集しているが、選択した研究方法・分析方法を実施するのに十分な量とはいえない	収集した量のデータ・資料では、選択した研究方法・分析方法を実施できない	(現在、執筆中のご自身の修士論文を振り返って自己評価を書いて下さい)
	分析方法	研究目的を達成するために選択した研究方法にふさわしい分析方法が行われており、当該分野における一定の水準を超えている	研究目的を達成するためにふさわしい分析方法が行われており、当該分野における一定の水準に到達している	分析方法は、おおよそ研究方法にそって選択したものであるが、一定の水準に到達していないところがある、あるいは、さらに適当な分析方法が考えられる	分析方法の選択が間違っている、あるいは、一定水準に到達していない	(現在、執筆中のご自身の修士論文を振り返って自己評価を書いて下さい)
	結果の表現	結果を適切に表現するために必要な図表等が作成・配置されている	結果を適切に表現するために必要な図表等がおおよそ作成されており、ほぼ問題なく配置されている	結果を表現するために図表等が用いられているが、必要としないものや冗長なものがあったり、ないために理解しにくい箇所がある	結果を表現するために必要な図表等がほとんど作成されていない	(現在、執筆中のご自身の修士論文を振り返って自己評価を書いて下さい)
	結果の解釈とまとめ	参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈をおこなっている。予想や仮説に一致しない結果も重要な結果として捉えている	参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈をおこなっている。予想や仮説に一致しない結果は例外として処理している	結果の解釈そのものに歪曲はないが、一部に予想や仮説に一致した点だけを結果として捉えている箇所がある	予想や仮説に一致する結果だけを報告している、あるいは結果の解釈に一部歪曲が認められる	(現在、執筆中のご自身の修士論文を振り返って自己評価を書いて下さい)
成果	成果の水準	当該分野において、これまで解決できなかったことを解決する知見、あるいは新しい事象の発見を参考資料や得られたデータに基づいて提供している	当該分野において有意義な知見や発見を参考資料や得られたデータに基づいて提供している	得られた知見が、当該分野において有意義なものといえるかどうか、やや疑問が残る	当該分野において有意義な知見が得られたとはいえない	(現在、執筆中のご自身の修士論文を振り返って自己評価を書いて下さい)
	成果の公表	学内での発表に加え、関連学会での発表、または雑誌等への投稿によって、研究成果を公表した	関連する学会あるいは学内の発表会で研究成果を充分に発表することができた	学内の研究成果発表は行ったが、成果を充分に示すことができなかった	充分な学内の研究成果発表ができなかった	(現在、執筆中のご自身の修士論文を振り返って自己評価を書いて下さい)
	実践への貢献	研究によって明らかとなった知見や成果物を教育現場等の実践者へ提供し、役立てることが決まっている	少し手を加えれば、研究によって明らかとなった知見や成果物を教育現場等の実践者に役立ててもらえる	かなり手を加えないと、研究によって得られた成果を教育現場等の実践者に役立ててもらえない	教育現場等の実践者に役立ててもらえないような成果は得られなかった	(現在、執筆中のご自身の修士論文を振り返って自己評価を書いて下さい)